

I 団体の概要

令和2年7月1日現在

団体名	公益財団法人 姫路・西はりま地場産業センター					
団体所管課	産業局 商工労働部 産業振興課					
設立	昭和56年(1981年)10月26日					
資本金	152,690千円	市出資金	102,400千円	67.10%		
設立目的						
西播磨地域における地場産業振興のための事業を行うことにより、地場産業の健全な育成及び発展に貢献し、もって活力ある地域経済社会の形成、地域住民の生活向上及び福祉の増大に寄与することを目的とする。						
寄附行為(定款)に掲げる事業						
<ul style="list-style-type: none"> ・地場産業の振興に関する調査及び研究 ・新製品、新技術、デザイン等の開発研究及び試作 ・経営の合理化、近代化に関する研修会及び講演会の開催並びに経営相談 ・情報の収集及び提供並びに情報交換のあっせん ・地場産業製品等の普及事業及び展示会の開催 ・姫路・西はりま地場産業センターの管理運営 ・その他この法人の目的を達成するために必要な事業 						
主 な 事 業	事業名	R3年度事業費 (予算額)	事業概要			
	公益目的事業	19,980千円	新商品開発、研修、地場産業普及啓発等			
	収益事業	85,200千円	施設提供、物品販売等			
役 職 員 数 (注1)		常勤(注2) (うち市派遣)	非常勤	一般職 (うち市派遣)	嘱託・ 臨時等	
	役員数	1人(人)	14人	職員数	2人(2人)	10人
	役員平均年齢(常勤)	—	役員平均年収(常勤)		—	
	職員平均年齢(一般職)	—	職員平均年収(一般職)		—	
年度		H30	R1	R2(決算見込み)		
市 か ら の 財 政 支 出 等	委託料	4,802千円	3,993千円	447千円		
	補助金	5,389千円	5,389千円	5,353千円		
	貸付金 (年度末残高) 損失補償の対象 となる借入金					
財 務 概 況	当期収入	109,840千円	107,940千円	81,599千円		
	当期支出	107,744千円	97,705千円	71,423千円		
	当期収支差額	2,096千円	10,235千円	10,177千円		
	次期繰越収支差額	83,250千円	93,485千円	103,661千円		
	総資産	456,830千円	452,789千円	453,888千円		
	総負債	22,742千円	23,407千円	14,328千円		
	当期正味財産増減額	△11,335千円	△4,705千円	10,177千円		
正味財産	434,088千円	429,383千円	439,560千円			
ホームページアドレス	https://www.jibasan.or.jp/					

注1：役員平均年齢、役員平均年収、職員平均年齢、職員平均年収には、市からの派遣職員は含まない。

注2：常勤役員には、週29時間以上勤務する常勤的な非常勤役員を含む。

注3：常勤役員は1名のみのため、役員平均年齢及び平均年収は個人情報保護の観点から非公開とします。

II 基本方針

1. 団体の前計画期間（平成28年度～令和2年度）における主な取組実績

- ・皮革素材ブランド「TAN2AGE（タンネージ）」やオリジナル皮革製品「sebanz（セバンズ）」のシリーズ化を立ち上げた。
- ・播産館の経営改革の取り組みにおいて、地場産品販売の専門家を館長とする新たな体制のもとで、売場のレイアウト変更や陳列什器の入れ替え、品揃えの強化等を実施。播産館のリニューアルを実施した。
- ・貸館業務を外部委託
- ・4階フロアを改修し貸会議室を新設
- ・姫路市の11業種の地場産産を一同に会し、じばさんまつりを実施
- ・SNSを活用したイベント情報の発信などに加え、地場産業者への取材を実施し、姫路市内の地場産産紹介をHP上にて作成

2. 団体を取り巻く環境・経営上の課題

- ・公益法人の財務三基準（≒財団継続の条件）を常時充足するため、公益目的事業（新商品開発、播産館運営、研修普及啓発等）を強化する必要がある。
- ・コロナ禍で貸会議室の利用や「播産館」への集客が落ち込んでおり、地場産品のPR機会が減少しているが、自主財源確保のため、立地の優位性を踏まえて施設や播産館の集客向上に向けた積極的なPRを行い、経営強化を図る必要がある。

3. 団体の将来像（ビジョン）

- ・地場産産の健全な育成及び発展のため、団体の有するネットワークや機動性を活かし、自治体が直接行うには効率的でなく、かつ民間では担いきれない新商品開発や普及啓発等の事業を実施することで、地場産産界全体の発展に貢献する。

4. 団体の改革の方向性

- ・各業界団体及び関係自治体等との連携を強化し、各団体が実施する類似事業との整理、調整を図り、本団体として注力すべき事業を明確にし実施する。
- ・じばさんビルの老朽化対策、コロナ禍による施設利用料や播産館運営収益等の減収により、令和2年度以降の経営状況は悪化すると見込まれる。経営状況を改善するため、事務の整理や効率化、実施事業の重点化を図り、財政の建て直しを行う。
- ・施設の老朽化対策に関して、施設の状態を適切に把握し、緊急性や必要性を考慮し計画的に実施する。

Ⅲ 健全経営に関する計画

計画期間：令和3年度～令和7年度

1. 経営目標

目標	全体収支の黒字化（収益の向上）
目標達成に向けた取組み	播産館経営改善による販売力の強化 貸室の利便性向上及びPRの強化 実施事業全体の見直し及び整理

2. 数値目標・指標

健全経営に関する数値目標	令和元年度実績値	目標値（令和7年度）
播産館運営収益	20,325 千円	26,083 千円
会館使用料収入 （基本財産受取賃貸料 ＋施設使用料収益）	56,725 千円	60,211 千円
正味財産期末残高	429,383 千円	384,881 千円

経営目標達成に向けた取組みの進捗状況やその成果を測るための指標

播産館収支差額
会議室稼働率
当期一般正味財産増減額

3. 事業運営の最適化

事業の最適化及び事業実施方法の適正化	
新商品開発事業	消費者の新たなニーズを開拓し、業界を牽引する力を備えた魅力ある商品の開発を行う。
研修事業	他講座との類似性が低い、地場産業事業者にとって魅力のある講座・研修を研究し実施する。
情報収集提供事業	関係自治体、各業界団体及び全国地場産業振興センター協議会等との連携を強化し、情報収集及びニーズの把握を行う。
地場産業普及啓発事業	PR効果の高い媒体の活用や、集客力・話題性のあるイベントへの出展等により、広く効果的な普及啓発活動を行う。
播産館運営事業	地場製品の展示機能を高めるとともに、本団体の重要な財源として位置づけ、新たな販売手法の検討等、経営の改善を行う。
施設提供事業	各種産業活動の促進に貢献するとともに、本団体の重要な財源として位置づけ、施設機能の維持及び向上に努める。
利用者満足度の把握・改善	播産館や貸会議室者の利用傾向を分析し、利用者の属性やニーズの把握に努める。

4. 団体運営体制の改善

(1) 執行体制

役員体制	適正な役員数及び候補者選出の検討
職員体制	適正な人員配置及び事務分担の実施
リスク管理の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公益法人会計に精通した専門家に、会計面のみならず組織運営面でも適切な助言を得る ・ 業務運営上、特定者への過度の依存を排除。 ・ 意思決定の体制・手続きを明確化

(2) 人事・給与

「外郭団体の職員の給与及びその他の勤務条件に関する指導基準」への適合	本団体の実情を考慮しながら、指導基準への適合を目指す
人材育成及び士気の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国公益法人協会主催の研修など各種人材育成の機会を積極的に活用する。 ・ 職務の特殊性や実績に応じた手当支給等を検討する。

(3) 財務管理

収入確保の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 播産館運営収益の増収に取り組むため新たな手法を開拓する。 ・ 貸会議室の稼働率向上を行い、施設使用料の増収に取り組む。 ・ 新たな商品開発による増収に取り組む。
基本財産等の運用	建物については良好な維持管理に努め、その他財産については地方債等、安全で確実な方法により運用する。

5. 財務状況の見通し（試算）

年度		R3	R4	R5	R6	R7	
財 業	公益	当期収入	44,629千円	43,781千円	42,949千円	42,133千円	41,333千円
	事業	当期支出	80,821千円	75,972千円	71,413千円	67,129千円	63,101千円
		当期収支差額	△36,192千円	△32,191千円	△28,464千円	△24,995千円	△21,768千円
		次期繰越収支差額					
務 業	収益	当期収入	68,102千円	68,919千円	69,746千円	70,583千円	71,430千円
	事業	当期支出	37,353千円	38,137千円	38,938千円	39,756千円	40,591千円
		当期収支差額	30,749千円	30,782千円	30,808千円	30,827千円	30,839千円
		次期繰越収支差額					
概 計	合計	当期収入	112,731千円	112,700千円	112,695千円	112,716千円	112,763千円
	計	当期支出	118,174千円	114,109千円	110,352千円	106,885千円	103,692千円
		当期収支差額	△5,443千円	△1,409千円	2,344千円	5,832千円	9,071千円
		次期繰越収支差額	98,218千円	93,875千円	90,769千円	89,159千円	89,198千円
況	総資産	430,740千円	422,556千円	414,527千円	406,651千円	398,925千円	
	総負債	13,496千円	13,631千円	13,767千円	13,905千円	14,044千円	
	当期正味財産増減額	△21,933千円	△8,319千円	△8,165千円	△8,014千円	△7,865千円	

	正味財産	417,244千円	408,925千円	400,760千円	392,746千円	384,881千円
--	------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------